

第 2 回長野市都市計画マスタープラン改定専門部会 意見一覧表

項目			第 2 回専門部会での発言等		対応方針
			ご意見	事務局等の回答	
【改定に向けた基礎的なデータ集計及び現状分析の報告について】					
1. 都市 の現状	公共交 通に関 する意 見	バス路線の 5 路線廃止 に伴う対応	○今後バスが減っていくような場所は、市営バスに頼っていくのか。 ○公的にきちんと維持すべき路線がどこであるかをこの部会でも議論していくことが大事。	○通勤・通学のためにも 10 月まで延ばしていただき、その後 3 月までは市営バスを走らせ確保していく方針。	➡公的にきちんと維持すべき路線がどこであるかをこの部会でも議論していく。
			○乗り合いタクシーで幹線と言えるのか等、地域公共交通計画で見直していかなければならないが、この都市マスの議論でどこまで踏み込んでいくのか。 ○地域の中での中心となるような場所や、路線を何とか維持し続けたいいけない縁辺部の集落をどういうふうに表現するのかは、ここでも議論すべきことだと思う。都市全体がどういう構造であるべきかについて議論しつつ、地域公共交通計画の議論とも密にリンクしながら進めていくのではないかなと思う。	○現行の都市マスは、市の中心市街地とその他地域の拠点とを結ぶという意味で、市域全域を対象としている。生活の拠点かどうかに重きを置き、そのネットワークとして公共交通を維持しなければならないと考えている。	➡都市全体がどういう構造であるべきかについて議論すべきであり、地域公共交通計画の議論と密にリンクしながら進めていく。
	バス路線の データ分析	○公共交通はまちづくりの中で大事だと思う。バスの運行本数は減っているという説明があったが、市街地のバスの運行本数は増えているのではないかな。 ○令和 4 年までのデータであり、昨今の急激な変化が反映されていない状態ではないかな。令和 6 年で比べると減っているところが増えるのではないかな。 ○バスの「減少」のところに「廃止」も入って	○長野電鉄の廃止や代替バスの運行、市街地を循環するバスの運行等の状況の変化が影響している。この辺りは肝になると思うので、もう少し経過を含めて示していく。 ○もし廃止されているのであれば入	➡左記回答のとおり。 ➡要検討	

項目			第2回専門部会での発言等		対応方針
			ご意見	事務局等の回答	
			いるのか。「廃止」と「減少」は分けて示したほうが良い。 ○昨今の状況や動きを捉えながら、随時示していただければと思う。	っている。	
その他の意見	人口のデータ分析	○人口推移など過去のデータだけでなく、将来推計も見ながら議論したほうが良い。	○社人研による将来推計を使用し、人口分布等は把握することができる。	➡将来推計も見ながら検討する。	
		○人口増減率の図等に関して、中心部と郊外部と縁辺部のそれぞれの市街地ごとのタイプに分け、人口密度で表現する等、もう少し解像度を上げて具体的に示すことで、今後どこでどのような施策を進めていけばよいかわかりやすくなる。 土地利用現況等のまちの状況がわかるような見せ方の工夫があるとよい。	○特に 8 ページの人口増減の図などで、絶対値などの要素が違うものが一つの図面に入っているところもあるので、見せ方等の表現に気を付けていきたい。	➡図面だけでなく、地区ごとの集計表も整理する方向で検討する。	
		○合併前の市町村の人口も含まれているのか。	○含まれている。		
	その他	○車の所有台数や駐車場の割合等のデータも整理しておくとうい。	○今後、中心市街地の在り方を考えていくなかで、必要な材料だと思うので少し整理したい。	➡左記回答のとおり。	
		○16 ページの「災害リスクのある区域の人口推移」で示されている単位がおかしい。	○確認し修正する。	➡修正する。	
2. 上位・関連計画の主な改定箇所	人口ビジョン	○長野市の人口ビジョンに関して、家制度につながる結婚制度がないと子どもは持たない前提みたいなものを、もう少し一回フラットな形にしていかないと、長野市の人口は増えな		➡要検討	

項目		第2回専門部会での発言等		対応方針
		ご意見	事務局等の回答	
		いのではないか。 ○社会やライフスタイルの変化を踏まえて、居住誘導区域の考え方や都市機能の配置等を考えていかなければならない。		
	自転車活用推進計画	○自転車の目標について、サイクルツーリズムのようなレクリエーションは目標・施策に含まれているのか。含まれているのであれば、そのような表現を入れてもよい。	○長野市の計画では、通勤・通学などの生活に密着した観点で作成されている。観光地を回るようなサイクリングロードなどは、別で国の方で作成している。	➡要検討（担当課に確認）
3. 立地適正化計画に掲げた数値目標の中間評価		○資料の最後のアウトプット指標は都市マスにおいても使用するのか。 ○アウトプットの指標は、第5回専門部会で議論する目標や分野別方針にも大きく関わってくるため、第4回専門部会から先行して議論させていただきたい。	○まさにこの部会の中でも議論していただきたいところ。平成27年に初めて立適を作り、前回の令和4年は大きく変えていないが、今回都市マスも変えるということで、そこに関しても議論していきたい。 資料1のスケジュール表で言うと、第6～8回の辺りで示す内容であると考えている。	➡アウトプット指標に関して、第4回専門部会から先行して議論する。
		○立地適正化の中で都市機能や居住誘導の区域設定に関して、今あるエリアをベースに考えるのかそうではないかによって、かなり考え方が変わってくるのではないかな。 ○継続して同じ指標で比較していくことも必要だとは思いますが、数字を見ながらエリアを変えていくというのとも考えられる。回数は限られているが、ぜひどこかでしっかり議論できる時間を取れればと思っている。	○長野市は多極型のだいぶ広がった都市構造の中で都市が形成されてきた経緯があり、他都市と同じようにするのは難しいかもしれないが、検討は少なくとも行っていく必要はある。	➡左記回答のとおり。

項目			第2回専門部会での発言等		対応方針
			ご意見	事務局等の回答	
【市民意識調査の実施について】					
1. アンケート全体に関すること	地域別の分析	配布数（地域別・地区別集計の信頼度）	○アンケートの配布対象が3,000人では、特に人口が少ない地区の場合、クロス集計を行っても母数が少な過ぎて、統計的に意味をもつ結果にならないのではないかと。もう少し数を増やしてもよいのでは。 ○いまのパソコンやネット環境で配布数3,000人は少ない。平均的な情報を得るために配布数を増やすべきではないかと。 ○全体で統計的に意味をもつ母数が得られても、地域ごとに取れる数は少なくなって精度が下がるということであれば、地域別の結果は活かさないということにならないかと。 ○年代ごとには比較できる精度の数は得られそうだが、人口が少ない地区をどのように評価するか考える必要はある。QRコードを多くの人が閲覧できるようにしたり、無作為抽出を行ったり等、少し検討いただきたい。	○前回のアンケートは回答率が40%ほどで、これと同等の回答率が得られれば、ある程度信頼のおける結果は得られるものと考えている。 ○32地区すべてでは使えないかもしれないが、母数によっては対応に使える場合もあるため、地区ごとの分析はしたい。また、もう少し大きな枠組みのエリア単位でのクロス集計であれば、母数は増えるので、より有効に用いることはできる。	➡市民アンケートは長野市全体について、傾向把握することを主目的としている。クロス集計では、市街地、市街地周辺地域、中山間地域の3地域の区分での結果活用を想定している。また、地域別構想も32地区の区分ではなく、12地域の区分であり、この区分であれば、ある程度の精度の結果として読むことができる。 ➡配布対象者数（3,000人）について、統計学的に一定の精度（信頼水準95%、標本誤差3%）を得るために、前回のアンケートの回答率を踏まえ設定している。クロス集計をした場合、回答数に応じた精度のものとして、その結果を読みとる必要はある。

項目			第2回専門部会での発言等		対応方針
			ご意見	事務局等の回答	
	アンケートと合わせて行う分析手法	アンケートと合わせて行う分析手法	○地域別でどういう状況なのか、住民の方がどういう満足度をお持ちなのか、どういう課題意識をお持ちなのかということが分からないと検討は難しい。地域別懇談会で、実際に議論をしたり意見を聞いたりという場を設けるということも一つの手だが、今のスケジュールでは地域別懇談会は、もう素案を作って、「どう思いますか」という段階になり、その地域の声や意見などを収集するという観点で言うと、地域別懇談会をもう少し前倒しで行うのか、あるいは、WEB アンケートみたいなものを別途行うなどしたほうが良い。	○ある程度たたきの地区別の素案を作った段階で32地区の住民自治協議会へ示し、地域の声を汲み取っていきたいと考えている。 ○今回のアンケートでも記述回答から地域の声を拾うことはできる。	➡地区別カルテのデータも整理して参考にしていく。 ➡今回のアンケートを補完する形で、他課で実施しているアンケート結果も参照し、参考にしていく。
			○地域の声を聴くということであれば、住自協に依頼して地域別の計画の状況について少しまとめてもらう等が考えられる。		
			○住自協ごとのアンケートのような形で、地域で今どういう困り事やニーズを市の方で取っていないのか。	○地区別カルテという地区別に取りまとめたものがある。	
			○地域別にアンケートを取るというのは、そんなに難しいことなのか。	○今回のアンケートで、地域ごとに統計的に妥当性がある数の回答を得ようとする膨大な配布数となり困難。別のアンケートを考えるか、アンケートでない別の手法で地域の声を拾うこと考えるのが現実的。	
			○地域ごとの特徴をしっかりと捉えて考えていくということが非常に大事で、地域ごとに丁寧に見ていくというところを意識して、アンケートの設計や集計を検討いただきたい。		

項目		第2回専門部会での発言等		対応方針
		ご意見	事務局等の回答	
	質問の作り方（用語）	○「地域」なのか「地区」なのか。問4で地区を聞いているため、地区の方が良い。もし「地域」のままだとすると長野市全体を地域だと捉えてしまう人がいるため、問15と設問の順序を入れ替えたほうが良い。	○地域別構想をイメージして「地域」という表現にしたが、感覚的には生活圏という意味で「地区」の方が良いと思う。	➡「地域」を「地区」に修正する。
	回答者の負担感	○100個以上丸を付けないといけないようなアンケートになっているため、途中でやめないか気になった。	○枚数は許容範囲だと考えている。選択肢回答できるものと記述式のものを用意しており、ボリューム感は考慮して作成している。	➡左記回答のとおり。
	高齢者意向の把握	○ターゲットとして子育て世代や若者に別でアンケートを実施しているが、今後さらに比率が多くなってくる高齢者の意見ももう少し丁寧に拾う必要があると思うが、どうか。 ○聞くべきことは全体のこのアンケートの中で、そういったシニアのニーズもきちんと捉えられていますというところは答えられるようにしておく必要がある。	○年齢が高い方にはアンケートに比較的答えていただいているので、そこである程度の意見が集約できるのではないかと考えている。 高齢者目線という点においては、設問を加えるなど少し検討したい。	➡高齢者の意向も拾えるような設問・選択肢の設定を行う。 また、クロス集計や記述回答からも、高齢者層の傾向や意向を一定程度把握することは可能である。 ➡他課で実施しているアンケート結果も参考に整理する。
2. 個別の設問に関する事	問1. 性	○自身の性別に関して、「その他」と「回答しない」は同じでも良いのではないか。	○LGBTの観点から4つの選択肢を設けている。「その他」というくくりを不快に思う方もいるため、そうした方への配慮として「その他」と「回答しない」を分けている。	➡同時期に実施している総合計画のアンケートに倣い、「その他」と「回答しない」を1つにまとめ「その他・未回答」にして、3つの選択肢に改める。
	問2. 年齢	○年齢を回答することに嫌な気持ちになる人もいるかもしれない。	○集計としてはほしいが、記載方法は検討する。	➡年齢は生年月日に基づく客観的な数値で、性別のように自認は少ないため、個人を特定する活用はしないことを前提に、分析上必要な不可欠な基

項目		第2回専門部会での発言等		対応方針
		ご意見	事務局等の回答	
				本属性として「回答しない」等の選択肢は設けない。 ※「20代」や「30代」など年代区分で尋ねる配慮の仕方もあるが、前回アンケートとの比較では10歳代刻みが妥当である一方、前期高齢者は65歳、後期高齢者は75歳からといったように、ライフステージの変化を捉えた別の区分での分析も行いたいため。
	問7. 未成年者との同居の有無	○資料4の3ページの問7について、「18歳未満のお子さんやお孫さんと同居又は同一敷地内」という記載があるが、一緒に住んでいても自分の直接の子どもや孫ではない限りは、「いいえ」になるのか。	○設問の意図からすれば、子や孫に限定せず、「未成年の方と同居又は同一敷地内にお住まいですか」という表現でよい。	➡左記回答のとおり、「18歳未満のお子さんやお孫さん」は「未成年の方」に修正する。 ※近年、成年年齢が変わったため、冒頭の表現は「未成年の方（18歳以上）」とする。
	問10. 現状に対する満足度と重要度	○設問に「長野市では現在、地域ごとの特性に応じたまちづくりを進めています」という文章があるが、本当にそれぞれの地域の住民が、長野市がこの地域をこんなふうにしたいのだということを理解した上でこのアンケートに答えてもらっているかという点では疑問である。一律で聞くのではなくて、地域ごとにアンケートをするというような聞き方をすると、より我々が欲しい情報が得られるような気がしているが、そのような工夫はできないか。	○素案の段階以降の地域別懇談会で地域別の意見を聞いていこうと考えている。	➡ご指摘の文章は前回のアンケートでも同種の設問に用いられていた表現を継承したものだが、各地域の構想を知らなくても回答できる設問でもあるため、当該表現の要否を含め、再考の余地がある。 ➡選択肢は一律ではあるが、まちづくりの現状を捉えるうえで必要な項目を網羅的に設定しており、この設問の結果か

項目		第2回専門部会での発言等		対応方針
		ご意見	事務局等の回答	
				ら地域・地区の特性や現状に対する評価、今後の方向性に対する意向の違いが出てくることを想定している。
	問 15. 今後のまちづくりの方向性に対する共感度	○前回のアンケートから大きく変わっているため、経年変化を把握することが難しい。 具体的には、前回のアンケートの問8, 9, 10のあたり。今後のまちづくりの方向性に関して、前回のアンケートでは重みづけで質問しているが、今回のアンケートでは、重要度を問う設問になっている。今回のアンケートは、前回に比べ答えやすくなったが、集計結果をどのように活かしていくかという点においては、参考にしにくい方法となっている。	○前回のアンケートは項目が多く、答えるのが大変だったため今回は集約した。	➡今後のまちづくりについての設問は、前回アンケートと設問の仕方を変えたことと、前回以降の時代の変化や社会の要請の基づく新たなまちづくりの方向性もあるため、前回に囚われない選択肢にしていたが、設問全体を見直す中で、必要に応じて、前回のアンケートと比較できる設問も設ける。
		○全部 80%が非常に共感と回答したときに、それをどう解釈すれば良いか。重み付けをするより、特に共感するものを何個か選択してもらう方が集計したときに使いやすいのではないかな。	○今はあえて選択肢を狭めることはしていないが、回答者の負担感も考慮するとおっしゃる通りだと思うので、次回までに検討する。	➡選択肢が25項目のままだと、数量限定の選択方式に変えても回答しにくいいため、今回の計画策定のポイントとして捉えている3つの観点からカテゴリー化して設問を分ける。各設問は数量限定の選択方式とし、それぞれ都市計画に関連性のある内容（土地利用や都市施設整備）で、ハード・ソフトを含め、網羅性やトレードオフの関係性などを考慮して選択肢を設定し直す。

項目		第2回専門部会での発言等		対応方針
		ご意見	事務局等の回答	
		○資料4の4ページの間10と問15は、同じようなことを聞かれているように感じ途中で回答するのをやめてしまう人も出てくるのではないかと思います。 ○問10と問15で同じくらいのボリュームのものが2回出てくるところで、結構抵抗感があると思っていた。 問15をもう少し絞れるといいと思う。自分の住んでいる場所や暮らしの中で感じていることを問10で聞き、市全体としてあるいは長い目で社会を見たときにどういうことが大事かは、問15で答えてもらおうと考えると、もう少し絞れると思う。	○前回は方向性に関してもある程度カテゴリを決めて、その中で類似の選択肢を並べて聞いているが、今回、都市マスはどういう観点で方向性を絞り込んでいくかというところがまだ見えない中であるため、現行の案では、分野分けをせず一緒に聞いている。	➡立地適正化計画の検討にも活用することも念頭に、防災・減災を含む「安全・安心のまちづくり」、公共交通を含む「移動・交通のあり方」、「都市活力」の3つを観点として設問カテゴリをつくって選択肢を絞り込み、設問によっては前回アンケートとの比較も考慮して、選択肢の内容を再編集する。
3. 対象者の抽出に関する事		○層化抽出は行わないのか。年代・地域ごとのデータを取りたいのであれば、人口比率的に各地域から同じ割合ずつ配って、同じ年齢についてもある程度抽出していくというようにやっていただいたほうがいいのではないかと思います。	○今のところはそこまでの抽出はしない予定。次回までに検討する。	➡ご指摘のとおり、配布対象者の抽出に際しては、単純無作為ではなく、性別、年齢、居住地区など各層における母集団（実際）の人口構成比を考慮した、層化抽出を行う方向で調整する。